

No. 707

—カメラ・スケッチ—

都会っ子の夏

272F

むし暑さの続く東京。普段自然の風物と縁の遠い都会っ子にとって夏は自然と親しむ季節です。

これは都会にある人工の自然。トラック利用のプールや、デパートの屋上に開設された昆虫公園に子供達は大喜び。しかし暑い東京から逃れる先が校庭のキャンプでは、都会っ子の夏は涼しいものとはいえないようです。

下北のこんぶ漁

305F

—青 森—

本州さいはての地下北半島大間崎。かつて「陸の孤島」といわれたこの地方は青森県でも最も気候にめぐまれず、漁民たちは生活の糧を海藻類に求め細々と生計をたてています。

この地方に本格的な夏が訪れるといよいよコンブ漁の解禁です。早朝、合図の旗と共に一斉に出漁。一家総出のコンブ取りです。

十月まで続くコンブ漁も天候に左右され実動日数は20日、一戸当り50万円の水揚げにしかありません。そして資源の乏しい大間崎ではやがて冬がやってくると一家の働き手は都会地へと出稼に町を出ていくのです。